

軽仮設業界と農業②

日建リース工業 下

日建リース工業の運営する障がい者就労施設「はーとふる農園」では、ベビリーフやブルーベリーなどを栽培している。収穫した作物は雇用企業で社員食堂や社員に配ったりしている。飯能では地元イタリアレストランとの取引が始まるなど、徐々に地元にも浸透してきている。



きれいで安全な職場環境で農業に従事する

を渡した「高床式砂栽培」設備。かがむ必要がないので、作業負担が大きく軽減できる。最近では、片側からすべての作業がこなせるようにプランターの幅を狭くするなど改良。また自動灌水で水と養分を供給するので従来の農作業とは異なる「簡単・綺麗・安全」な職場環境を実現している。

働きがいある職場提供

日建リース工業ハウス備品

自社仮設機材を有効再利用

20年後に全国50農園開設目指す

材確保などを行っている。各農園に設置している栽培用のビニールハウスには、日建リース工業がレンタルで使った仮設足場用の単管パイプや枠組足場を使用して強度を確保している。ハウス内の作業台(プランター)は枠組足場を約半分の高さで切断し、高さ900ミにそろえて布板



今後の事業構想などを語る仁平次長(左)、阿部農園長

事業本部障がい者農園事業部の仁平哲治次長は「事業を始めて5年ほど経過し、近年は企業の申し込みが増加している。障がい者雇用の課題に直面している企業がいくつもある。農業に取り組み、一生懸命に育てた作物が誰かに喜んで食動に参加することは、農園や働く作業者にとっても意味あることだ。企業にとっても社

会的意義を見出すことができると語る。

「一般就労」に移行できる人材輩出を

農園スタッフ確保が課題

はーとふる農園事業は急激に拡大した新規事業のため、日建リース工業内でも農園スタッフの補充が喫緊の課題となっていた。そこで同社では、他事業からも含めて社内公募でスタッフを募集。手を挙げたのが、現在「はーとふる農園愛川」で農園長を務める阿部和弘氏だ。阿部農園長はもともと、同社介護事業に従事。今回の公募で「障がい者の自立」という事業ビジョンに共感し、応募した。

仁平次長は「障がい者雇用の課題は今後も続く。当社としては今後少しずつエリアを拡大して、5年後に11農園、20年後に50カ所の農園開設を目指す。地域に見合った形で、障がい者の方々の雇用の場を提供していきたい」と今後の目標を見据える。

運営にあたっては「障がい者の方々に働きがいのある仕事、職場を提供することが最大の使命。自分たちが本気で農業に取り組み、一生懸命に育てた作物が誰かに喜んで食動に参加することは、農園や働く作業者にとっても意味あることだ。企業にとっても社

「人々の幸せの創造」という企業理念のもと手探り状態で始めた「はーとふる農園」事業。今では、就労者から「仕事が楽しい」「定年まで働きたい」といった声も聞かれるようになったという。

阿部農園長は「定年まで働きたいという就労者の声があるのはうれしい。一方、トラブルがない日はなくらい」で、常に現場に目を配り改善策を練っているという。「就労者は『褒められる』ことに非常に敏感。よほど危険なことでもない限り、些細なことでも素直に褒めるようにしている。待を語る。

